



三木市記者発表資料 (令和7年12月24日発表)			
担当部課名	担当長	担当係	電話番号
総合政策部 秘書広報課	課長 中尾吉伸 (内線 2410)	広報広聴係	0794-82-2000 (内線 2414)

タイトル
<p style="text-align: center;"><b>2025年（令和7年）10大ニュースを選定</b> ～市政を中心として～</p>
本件のポイント
<ul style="list-style-type: none"><li>・公民連携による産業基盤の強化、脱炭素への挑戦、地域交通や消防など暮らしを支えるインフラの充実、そして大阪・関西万博でのチーム三木による魅力発信など、多方面でまちの未来につながる取組が着実に進展した一年でした。</li><li>・これからも未来へとつなぐ持続可能なまちづくりを推進し、「誇りを持って暮らせるまち三木」の実現をめざします。</li></ul>
説明文
<p>年末にあたり 2025（令和7）年の10大ニュースを選定し、市民の皆さんとともに進めてきたまちづくりを振り返ります。（時系列順）</p> <p><b>1 10大ニュース</b></p> <p><b>(1) ひょうご情報公園都市第2期</b> <b>公民連携(県・市・民間)による産業団地整備に関する基本合意書を締結(3月)</b> 企業立地の促進や雇用創出をめざし、県・市・民間が連携して産業団地整備を進めるため、兵庫県企業庁と基本合意書を締結しました。これにより、県と市の協力体制を強化するとともに、民間事業者のノウハウ等を活用し、産業団地の早期整備をめざします。</p> <p><b>(2) 市の組織を改編(4月)</b> <b>～窓口間の移動や手続きが便利に～</b> 多様化・複雑化するニーズに対応するため、妊娠期から出産、子育てまで切れ目のない一体的な相談支援ができる体制を整えるとともに、市民にとって便利でわかりやすい窓口とすることを目的に、健康福祉部の組織改編を行い、5月から市役所内の各窓口の配置を変更しました。</p> <p><b>(3) ゼロカーボンシティ宣言(4月)</b> <b>～未来のために今私たちができるることを～</b> 市民・事業者・行政が一体となり、地球温暖化対策や脱炭素に向けた取組をさらに進めるため、2050年までに温室効果ガスを実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」を宣言しました。</p> <p><b>(4) 「道の駅よかわ」が開駅(4月)</b> 今後のさらなる地域の活性化をめざし、これまで地域に親しまれてきた「山田錦の郷」が「道の駅よかわ」として生まれ変わり、新たに開駅しました。</p>



また、ここを拠点に自ら就農(半農)しながら(株)吉川まちづくり公社で勤務(半X)する「半農・半X」の雇用形態である「三木市地域おこし協力隊」が活動を開始しました。

#### (5) 大阪・関西万博で三木市をPR (4月~10月)

世界中から人や文化が集まる「大阪・関西万博」で、市民や事業者のみなさんと共に、市を代表する地域資源やものづくりの力、未来を担う高校生たちの国際交流など、三木の多彩な魅力を発信しました。主な取組は以下のとおり。

- ・「金物鷲」と福井県越前市「昇龍」の共同展示 (LOCAL JAPAN 展)
- ・万博国際交流プロジェクトで三木高校とフランス・クロミエ高校の生徒が互いの国・地域の魅力発信について発表 (ひょうご EXP041 「三木市の日」)
- ・近畿経済産業局と連携した地域資源 PR (“守・破・離” ~関西の伝統工芸等の未来への飛翔~)
- ・市内のひょうごフィールドパビリオンのプログラムが集結して発信 (ひょうごフィールドパビリオンフェスティバル 2025) など

#### (6) 三木市地域クラブ「みきティブ」がスタート (5~12月)

中学生が地域の中でスポーツ・文化芸術活動に参加できる三木市地域クラブ「みきティブ」が始動しました。三木ならではの「ゴルフクラブ」が5月に設立されたのをはじめ、これまでの部活動にはなかった種目も含め26クラブが設立されました。

#### (7) 三木市消防署吉川分署の新庁舎が運用開始 (6月)

旧よかわ幼稚園跡地に吉川分署を移転・建替えし、新庁舎の運用を開始しました。感染防止対策として仮眠室を完全個室化し、新たに女性専用スペースを設けるとともに、消防団吉川機動隊の器具庫を併設することで消防署と消防団の連携体制を強化しました。

#### (8) 三木市長選挙で仲田市長が再選 (6月)

6月29日に行われた三木市長選挙は、現職と新人が立候補し、仲田一彦市長が再選しました。7月2日から仲田市政3期目が始動しました。

#### (9) デマンド型交通「チョイソコみき」の運行エリアが拡大 (10月)

令和3年に吉川地区で運行を開始したデマンド型交通「チョイソコみき」が、令和7年10月から三木南・別所・志染の3地区でも新たに運行を開始しました。

#### (10) 団地再生事業 着実に進む多世代交流施設の整備 (12月)

令和7年3月に特別養護老人ホーム「三木すみれ園」が開設され、令和8年5月には、「多世代交流施設」のオープンを予定しています。12月には多世代交流施設の名称が市内総選挙により「HITOTOKI MIKI (ひとときみき)」に決定しました。行政相談窓口やチャレンジショップ、コワーキングスペース、多世代の交流スペースを備え、まちのリビングルームのように人が集う施設をめざして、着実に整備が進んでいます。

## 2 番外編

### (1) 「みき UMA フェス 2025」を開催（9~10月）

三木ホースランドパークで開催された「わた SHIGA 輝く国スポ 馬術競技会」にあわせ、「みき UMA フェス 2025」を初開催しました。期間中は、「障害飛越競技観戦ツアー」や話題となった「“推し馬” 総選挙」など、5 つのイベントを実施しました。

### (2) 東播磨道が全線開通（11月）

兵庫県が整備を進めてきた「東播磨道」の八幡三木ランプから小野ランプ(4.4km)の工事が終わり、全区間(加古川中央ジャンクションから小野ランプまでの12.1km)がつながり、全線開通しました。

本案件は次の SDGs 目標に関連します。

